

取組の概要

産業医、協会けんぽ、保健所、産業保健総合支援センター等の公的機関と連携して『職員がいつまでも健康に働き続けられる職場づくり』を実践している。

グループについて

人数：86名
年齢層：20代～60代
活動年数：7年4ヶ月

取組の詳細

- 健診等**：全職員が健康診断を受診し、「要観察」以上の職員に対し各拠点の看護師が専門的なアドバイスをを行い、必要時には再受診を勧めている。希望者は産業医と個別相談できる体制を整え、産業医からアドバイスをもらい、結果を返す際には受診結果の記入用紙を渡し職員が受診をするよう意識付けをしている。
- 研修**：協会けんぽの「事業所カルテ」を基に職員の健康課題を分析し、栄養士資格を持つ職員が「生活習慣改善講座」を行ったり、「がん検診啓発研修会」（保健所出前講座）等を開催し、健康に働くための学びの機会を設けている。
- 休暇等**：治療と仕事の両立に向け「治療と仕事の両立支援コーディネーター」を衛生委員会から3名養成し、支援対象者へのサポート体制を整備した。職員に周知するための研修会を開催、GLTD保険への加入、治療休暇制度を創設する等法人内の体制・制度を充実させている。
- その他**：毎年「看護の日」にちなみ、協会けんぽから体組成計と血管年齢測定器の貸出を受け、全職員に各種健康測定と健康相談を実施し、職員の健康意識を高めている。



<主体性>

産業医と定期的な職場巡視を行い、労働環境の問題点を職員全員で共有している。全職員が自分の身体を守り、元気で生き生きと働き続けることの重要性を学んでいる。

<独自性>

各拠点に看護師や栄養士など専門職が多数在籍しているため、職員を対象に専門知識を活かした「栄養指導」を行っている。身近な食品に含まれる油や砂糖の量を具体的に示すことで、食生活を見直さきっかけになっている。

<地域貢献度>

保育士の「職業病」といわれる腰痛や膝痛など、職員が抱える身体の悩みを解消するため、専門機関と連携し対策に取り組んでいる。今後、その成果を関係機関や保護者等へ広げ、健康で働くことへのきっかけを作りたい。

<将来性>

職員一人ひとりが健康づくりに関心を持つように積極的に様々な研修を開催するなど、意識付けを行っている。取組を継続することで、職員の健康保持増進に繋がり、いつもまで健康に働き続けられる職場になると期待ができる。

PR ポイント

- 健康診断で要観察以上の職員に対し受診を勧める等のサポート体制を整えている。
- 関係機関とも連携し、職員が健康に働き続けられるように健康づくりの学びの機会を設けている。また、コロナの影響で外部講師による研修会が開催ができなくなったため、所属する栄養士が「生活習慣改善講座」を行っている。
- 働きやすい職場環境を構築し、職員が自分の能力を発揮しながら成長していくことが法人の発展につながると考え、時間外労働の削減や年次有給休暇の取得促進（令和3年取得率実績：81.62%）、治療と仕事の両立に向け法人内の体制・制度の充実を図り、ワークライフバランスを推進している。